

# 株式会社 東宝映画

メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科

2年 上曾 和馬

## 1. 実習企業（団体）の概要

1971年11月東宝株式会社撮影所製作部、および企画部が中心となり設立された映画の製作プロダクション。東宝株式会社の前身である「P.C.L映画製作所」が現在の東宝スタジオ（世田谷区成城）で映画製作を開始して以来、その歴史と伝統を受け継ぎ、設立から39年間で160本を超える作品を製作し、幾多の名作・ヒット作を生み出してきた。昨今、メディアの進化と多様化、インターネットの高速化が進み、生活の中での「映像」のあり方や楽しみ方自体が大きく変容する中、より外に開かれた製作会社を目指している。

- ・設立 1971年11月8日
- ・資本金 1億円
- ・従業員数 25人
- ・所在地 東京都世田谷区成城 1-4-1
- ・取締役 佐藤 毅

## 2. 実習内容

エキストラさんの受付（撮影用のタオル、飲み物2本、熱中症対策の塩飴の配布）、遅れてくるエキストラさんの受付、一般市民の方への対応（敷地外）及び敷地内を歩いている一般市民の方への対応、到着した弁当の分配作業（俳優部さん、エキストラさん、スタッフの3種類）と整頓、余った弁当を敷地外に持って行き、次回の撮影時のエキストラ出演のお願い作業（スタッフと自分の2人）、撮影休憩時にエキストラさんに対して紙コップ1杯の水やお茶を配る作業及びヒヤロン（冷却グッズ）の配布作業、ウォータージャグの給水作業及びお茶やコーヒーの作成作業、俳優部さんの部屋や現場近くのお菓子入れのお菓子の補給作業、昼食後に各簡易ゴミ箱内のゴミ捨てとゴミ袋の補給作業、定期的な簡易トイレの水の補給作業、エキストラさんの質問対応や誘導対応作業、俳優さんからの毎日の差し入れ物に対する装飾作業と整理整頓作業、雨の日の撮影時には玄関にビニールを設置する作業及び周辺の清掃作業、敷地内のゴミ拾い作業、気温の高い日の教室の撮影の合間（カメラ調整での休憩時間）での出演者に対して扇風機での送風作業、撮影現場から離れた廊下での「本番」「リハーサル」などの掛け声による注意喚起作業、撮影によるホームランボールの捕獲作業

## 3. 実習の成果

最も身に付いたスキルは「洞察力」だと思います。特に、炎天下の撮影の時には「ヒヤロン」という冷却グッズを準備していたのですが、スタッフさんは「欲しいと言われた時に持っていけばいいよ」と言っていましたが、当時は結構な暑さで欲しいと言うエキストラさんが続出し、ヒヤロンの配布を待つ人で長蛇の列が出来ました。このような混乱が無い様に事前に『この暑さだったら「ヒヤロン」が欲しいだろうな』と予測し、行動に移す必要があるため、相手の立場や気持ちになって考えるという洞察力が常に求められており、自分に身に付いたと感しました。他には映画業界に限ったことではないのかもしれませんが、常に求められていることは「コミュニケーション能力」だと感しました。例えばスタッフ同士で必要な情報の共有や出演者のモチベーションを上げるためにこまめにコミュニケーションを取る事や敷地内外での一般市民の方への対応など、数多くの人と話す職業であるため、相手に合ったコミュニケーションが取れる能力が常に求められている職業なのだと感じました。具体的には、スタッフ同士では常に相手を気遣う言葉をかけるという助け合いの精神が感じられるコミュニケーションをし、出演者のモチベーションを上げる時にはノリ良く反応するコミュニケーションを取り、一般市民の方への対応では待ち伏せをされない様に言葉を選ぶコミュニケーションを取るなど、様々なテクニックが求められていて大変な仕事だなと実感しました。

#### 4. 実習の感想

今回の映画「青空エール」のインターンシップでは、主に3つのことに気付き、学びました。1つ目は「今必要なことは何か」という洞察力が常に求められていたことです。炎天下の撮影では撮影の合間を縫って出演者に飲み物や冷却グッズを配ったり、午前中の撮影の最中に出演者やスタッフのお弁当を準備するなど、撮影をスムーズに進めるために周りの状況を把握し、必要な事を自ら考え実行する大切さを実感しました。2つ目は、撮影をスムーズに進めるために現場スタッフが出演者のモチベーションを上げ、撮影現場の雰囲気をよくしていたことです。高温の日の教室のシーンでは、現場スタッフが出演者のモチベーションを上げるためにノリ良くコミュニケーションを取っていたり、出演者とこまめに冗談まじりのコミュニケーションを取るなど、現場の雰囲気や出演者の演技の質が落ちない様に様々な努力をし、撮影をスムーズに進めていることに感銘を受けました。3つ目は撮影での妥協なき姿です。カメラ自体を動かしながら撮る「ドリー」では、自然な形で撮れる様にイス一つの位置まで細かく決めて何度も撮影をしていた事や、同じ手法での撮影のピント合わせではメジャーを使い、妥協なき撮影をしていました。将来、テレビ業界への就職を考えている自分にとって、映画撮影の現場でのインターンシップは、ものすごく良い勉強になりました。今回学んだ「洞察力」や「撮影現場での雰囲気作り」はもちろんのこと「撮影で妥協しない」ことを今後の学生生活に活かしたいと考えています。

#### — 実習プログラム —

日数	実習日	実習内容
1日目	5月2日(月)	俳優部部屋や撮影現場近くのお菓子入れへのお菓子の補充作業、お茶作り、撮影現場の見学、定期的な簡易トイレの水の補充作業、昼と夜のロケ弁の分配と整頓作業、少し離れた廊下での「本番」「リハーサル」などの掛け声による注意喚起作業
2日目	5月4日(水)	俳優部部屋や撮影現場近くのお菓子入れへのお菓子の補充作業、お茶作り、撮影現場の見学、定期的な簡易トイレの水の補充作業、少し離れた廊下での「本番」「リハーサル」などの掛け声による注意喚起作業、昼と夜のロケ弁の分配と整頓作業
3日目	5月5日(木)	俳優部部屋や撮影現場近くのお菓子入れへのお菓子の補充作業、お茶作り、撮影現場の見学、定期的な簡易トイレの水の補充作業、昼と夜のロケ弁の分配と整頓作業、少し離れた廊下での「本番」「リハーサル」などの掛け声による注意喚起作業
4日目	5月8日(土)	エキストラさんの受付、敷地内外の一般市民の方への対応、冷却グッズの配布、テントなどの片づけ作業、出演者に水分の提供、昼と夜のロケ弁の分配と整頓作業、少し離れた廊下での「本番」「リハーサル」などの掛け声による注意喚起作業
5日目	5月14日(土)	エキストラさんの受付、敷地内外の一般市民の方への対応、冷却グッズの配布、テントなどの片づけ作業、出演者に水分の提供、昼と夜のロケ弁の分配と整頓作業、少し離れた廊下での「本番」「リハーサル」などの掛け声による注意喚起作業
6日目	5月15日(日)	エキストラさんの受付、敷地内外の一般市民の方への対応、冷却グッズの配布、テントなどの片づけ作業、出演者に水分の提供、撮影によるホームランボールの捕獲作業、昼と夜のロケ弁の分配と整頓作業、少し離れた廊下で「本番」「リハーサル」などの掛け声による注意喚起作業
7日目	5月21日(土)	エキストラさんの受付、敷地内外の一般市民の方への対応、冷却グッズの配布、テントなどの片づけ作業、出演者に水分の提供、撮影によるホームランボールの捕獲作業、昼と夜のロケ弁の分配と整頓作業、少し離れた廊下で「本番」「リハーサル」などの掛け声による注意喚起作業